

〈シンポジューム〉

中浦幌駅廻所と中川北松（Ⅱ）

博物館報告編集局・編

山崎 あの、その駅廻をつくった時のあの建物の話をお聞かせいただきたいと思うのですが。そのこれは7つの時に2才の弟を背負ってきたと…。

中川シ いえ、8つの時です。1年生で8つだったんです。

山崎 その時には完全にできておりました。

中川シ できていないです。山本惣六さんという大工さんがまだやっていました。

山崎 この方はやはり福井県から。

中川シ いや、岐阜県の人です。

中川政 ここにいたんです。

中川シ おとついですね、私その人のいとこさんのところへ行って調べて來たんです。そうしたらやっぱり惣六さんがこの家を建てたと言っています。

山崎 そうですか。大工さんではないですか。

中川シ 大工さんです。

中川政 惣六がね。惣六というのは悪いヤツで、途中でやめて、下重というのが仕上げているんだ俺は今でもその下重の顔わかっているんだから。

中川シ 私も惣六さんはわかっている。

後藤 豊頃ですか。

中川政 うん、豊頃の旅来にいるんだ。

山崎 大工ですか。旅来にいるんですか今。

中川政 いや、もう死んだでしょう。

中川シ 惣六さんが生きていて94、5才といいますから。

中川政 その家族は旅来にいるはずだ。私ね、馬買ひに行って会ったことがあるんだ。どうも見たことある爺さんだなと思って。もう老いぼれていたけれどね。どうも見たことあると思って、下重という家だし、「あんた大工さんでないか。」と言ったら「そうだ」って。「あんた、そしたら、留真の駅廻。中川駅廻建てる時にあんた来てやってくれたんでないか。」と言ったら、「そうだ。あんた、あの時の坊っちゃんかい。」というわけさ。もうすでに20年以上前ですけどね。

山崎 もう亡くなっていますね。

中川政 亡くなっています。

山崎 そうですか。そしてあの、調度品ですね。

畠や、そういうものは。

中川シ 自分でしたんです。

中川政 下浦幌に畠屋あったかな。どうかな。

中川シ それはわかりませんけど。調度品いくらかありました。あの浦幌からもらってきたたりしたのがあったんだよね。

中川政 大津か浦幌かだ。

山崎 この時、山本惣六のあと下重大工で完成してもあと何人かはいっていたでしょうね。

中川シ それは記憶ないです。まだ、8つや9つですから。

山崎 材料は？

中川シ 材料はなにか…。

山崎 見ましたら、けっこう他の駅廻より「ハマー」と思ったのはですね、その、柱なんかが非常にきれいに今の角材と同じように立派なものを使っていますね。

中川政 材料はほとんどここでしょうね。木工場もないし、こここの山は。

山崎 手引きですか。

中川シ そうです。

中川政 それは高台の爺ちゃんなんかが若い時やてくれたんです。

山崎 では、木材なんかには不自由しなかったんでしょうね。

中川シ それで、お上からやっかいにならなかつたというのは聞いていましたがね。それで大きく家内もいるし親類も多いから大きくしたということを聞いていました。

中川政 それは、補助があるはずです。

山崎 普通これくらい大きいとその頃でも2,300円くらい出ているんじやないかと思います。月手当が大正時代のこの記録によると中浦幌駅廻は官馬はいないです。と、いうことは官馬普通5

頭来るんですが、5頭自分でもっていたんですね
中川シ あの、私があつかったのは7頭だったね
兄さん。

山崎 何年ですか。

中川シ それは私が10才くらいから毎日馬の草を刈ったのを覚えているんです。妹と二人で学校帰ったらどうしても草を刈って来て扱ったんです。
7頭の馬扱ったはずです。

中川政 そんなにいない。

山崎 7頭ですか。それはね、おもしろいです。
中浦幌の中川さんの駅通はね1頭も官馬いないう
ことです。と、いうのは全部自分で持っていたとい
うことです。馬を。

中川シ だって、増えたんですもの。私が10才に
なった頃は、その時より増えていた。

山崎 ところが大正時代は逆に5頭しかいないん
ですよ。

中川シ ははあ。

中川政 いないんだ。俺が来た時から。

中川シ 馬の方は兄さんはもう馬ばかり撫でてい
たから。

中川政 俺来た時にね、道産馬が1匹とそれから
山崎 それは41年ですか。

中川政 ええ、普通の馬車を引っぱるのが1匹と
それからもう1匹いたぐらいです。3頭ぐらいで
す。

山崎 道産馬1頭と農耕馬。ペルですか。

中川政 ペルなんてものじゃない。道産馬を改良
したもので、ちょっと大きいのですね。その他に雌
馬1匹いたんです。

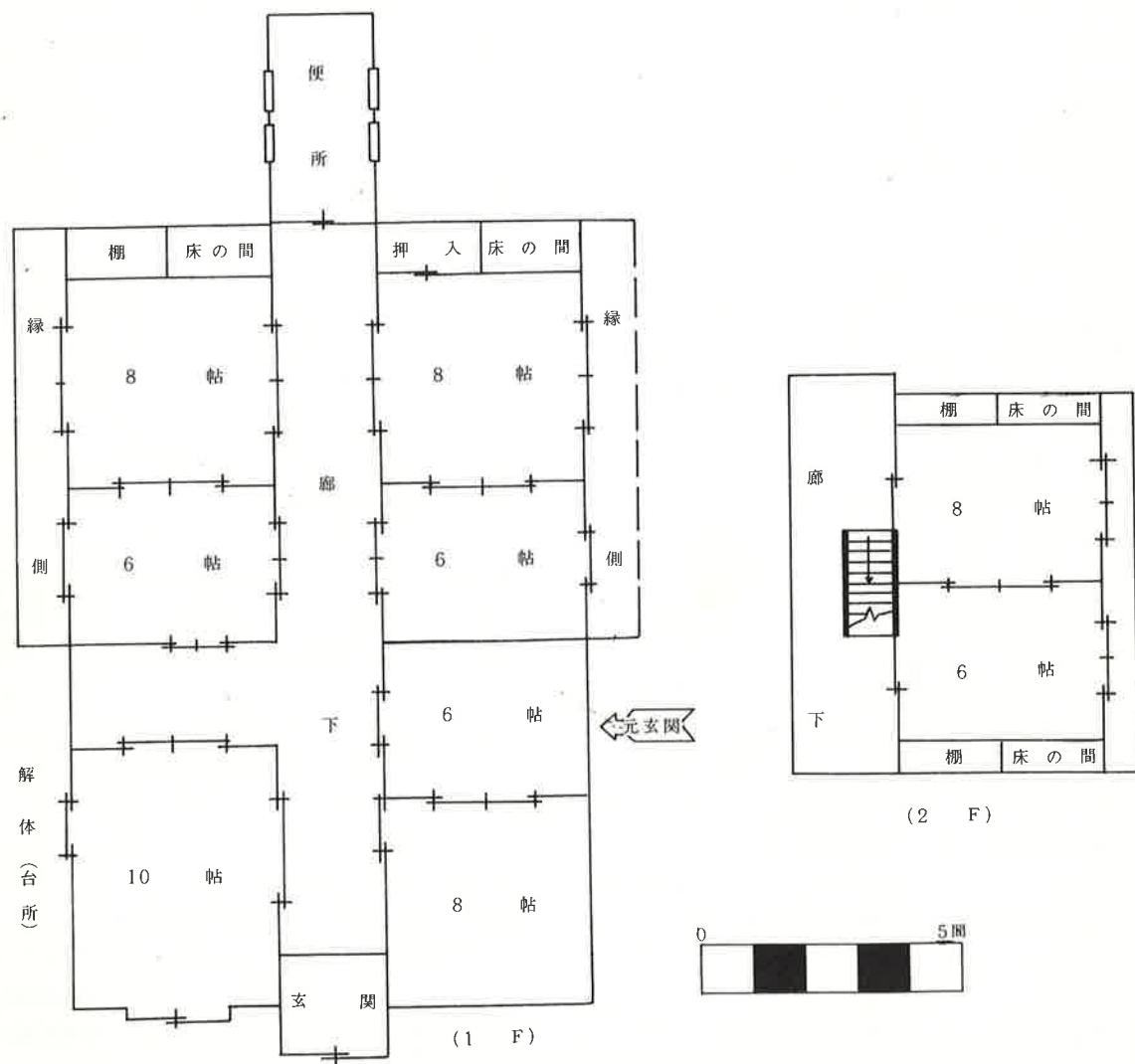


Fig. 2 中浦幌駅通所平面図

山崎 3頭ぐらいですか。明治41年頃ですね。

中川政 ええ、そうです。

山崎 馬小屋は？

中川政 馬小屋はここの…。

田中 現在の牛舎の跡です。

山崎 もう全然跡形ないですか。

中川シ それはもう。

田中 昭和5年に出火して改造してしまいました。

中川政 すっかり焼けてしまったんです。馬小屋が13才の時に…。

山崎 そうすると中川さん。その馬小屋に大体3頭ははいっていたんですね。

中川政 ええ。

山崎 牧場らしきものは？

中川政 牧場らしきものは、ここ道路の向かいの山がそうです。今、田中さんがもっている。

山崎 ええと、中浦幌の牧場 253,038坪といいますから。80町歩くらいですか。

田中 けっこう大きいですね。

中川政 これ、そんなにあるかい。

田中 現在、僕の引き受けたところは30町ですけど。今のトンネル（観音トンネル）ありますようあの両側にあったんです。

中川政 そうそう。あれをいれなきゃそんなにはならない。だから2口なんですよ。

山崎 畑ももらっていますよ。15,000坪。敷地が516坪ですから。516坪というとその駅通のまわり30坪くらいありますか。

中川シ この道々のできる時の何かありますか

山崎 いや、ありません。

中川シ その道々を作る土方さん達ここにちようどテントを張っていたんです。

山崎 この駅通がそうしてできて、大工も来て馬も来た。駅通というのは、ここではですね、宿屋と馬二つ。人馬の継立というのと旅人宿というのとを二つやっているんです。今のことばで言いますと、純然たる宿屋とお客様本意の宿屋と、それから上に行く方、下に戻る人には馬も貸しますよという二つやっているんです。看板に記憶ありませんか。

中川シ 看板というのはね。

中川政 看板は2つはなかったね。

山崎 なんという看板が建っていました。

中川政 「中浦幌駅通所」だね。

山崎 それが門柱に記憶ありませんか。

中川政 門柱、ないです。

山崎 ない。

中川政 玄関にただ看板だけです。

中川シ その時は生剛村だった。

山崎 生剛村ですね。「中浦幌駅通所」。そして普通玄関の両側に「旅人宿」「人馬継立」という細かいのが1枚ずつ張ってあるんですが記憶ないですか

中川シ いや、ありましたね看板はありましたよ

中川政 2枚張ってあったか。

中川シ それはあったんだけど。「人馬」って書いてあったわ、そういうえば。だって乞食まで泊めなければならなかった時なんですよ。

山崎 何んですか。乞食というのは？

中川シ 乞食といったら物をもらう、きたない、仕事しない人。

山崎 それがどうしてここへ来るんですか。

中川シ こんなところを通るんです。だから駅通所は何でも泊めなきやならないので。乞食でもアイヌでも…。

山崎 先ほどの話ですが、まちがいなく旅人宿も馬も貸していたんですが、その利用者ですね。まず、一つには奥へ入植する人が泊まりましたか。

中川政 いや、そういう人は全然泊まらない。

山崎 まず、いない。これより奥で開拓者がこの旅人宿で1泊をしてさらに上方へ開拓地を求めて行くなんていうことはなかったのですか。

中川政 なかったです。もう、その頃はずっと開けていたんです。本別まで。

中川シ その頃は乗り馬でね。

山崎 そうするとここを利用した一番のお客さんは誰ですか。

中川政 富山の薬売屋、行商人。秋になると呉服物背負ってくる行商人。

中川シ あとは役場、支庁の長官も何回もみえました。その時は石原村長さんでした。

山崎 そうするとここは河西支庁でなんのためにここに駅通をつくったかという理由なんですが。旅人を泊めるのは、それが本職だからあたりまえだけれども、普通の駅通の場合は…。

中川シ 私、開拓の道路ができるためにここ駅通ができたと聞いています。

山崎 しかし、道路の人夫はテントを張って暮らしたのでしょうか。

中川シ ええ。監督さんが座敷に泊って、そしていろいろな…。

山崎 この道路の正式な名前は何というのですか

田中 今は「道々本別浦幌線」ですね。

山崎 「本別浦幌線」ね。

中川シ 昔は「タコ部屋」と言ったんだね。

山崎 「タコ部屋」ありましたか。

中川シ ここに沢山来たんです。

山崎 道路の？ そうすると、タコ部屋の監督はタコと一緒に逃げないように監督して寝ているから…。そうですわね。そうすると泊ったのは誰なんです。

中川シ それは全然わからないです。

山崎 一番記憶に残っているのは薬屋ですね。薬屋と呉服屋なんていうのは一番記憶に残りますねあと役人とね。部屋をあとで見せてもらいますけど大体客用の部屋というのはいくつあるんですか

中川シ 2階に2つ、下に4つでした。家内が多いものですから、家内がはいるところが…。4部屋に9尺の廊下があったわね。

山崎 そして、この客用の4部屋ですね。お客様によって、こういうお客様はこっちの部屋、このお客様は床の間付きのこっちの部屋ということはありました？

中川シ はい、どこの部屋も床の間はありましたけどね、それはやはりありました。

山崎 例えば、あの先ほどの石原村長さんなんかが来た時には「ダンナさん」と言うのですか。

中川シ 「村長さん」です。

山崎 これはもちろん富山の薬屋の泊まる部屋とは違いますね。

中川シ はい、違います。

山崎 そういう部屋を何と言っていました。

中川シ やはり、そんなに立派なことも言えないのです。

山崎 部屋に名前はあったんですか。

中川シ そんな竹の間も梅の間もないです。

中川政 いい部屋はいい部屋ぐらいで…。

山崎 十勝の清水ありますね。清水のこれと似た駅通では「この部屋はダンナ衆の部屋です。」と言っています。

中川シ ええ、まあ、そんなふうになっていました。

山崎 やはり、そういう違いはあったんですね。

中川シ ありました。

山崎 冬、お客様や家族の方の暖房は何だったのですか。

中川シ その頃は火鉢とかね。炉をきってありますね。そこで炭の火を…。

山崎 全部きってありましたか。

中川シ はい、全部です。火鉢はもっと後から入れたんです。

山崎 これがある町の炉なんですが、これですか。

中川シ ええ。四角い炉縁に丸い…。

山崎 で、この丸いのは鉄ですか。

中川シ はい、そうです。

中川政 鑄物のやつです。

山崎 これが駅通の特色なんです。普通の炉はただ灰が入れてあるだけですね。ところが、全部鉄製の釜底みたいなものでつくってあるんです。

中川シ そうですよ。

山崎 炉端がありますね。こんなんですか。

中川シ 炉端ね。炉端に火箸を置いたんです。

山崎 官設の駅通というものは決まっているんです火災防止のために特に鉄の鍋底みたいなのを使っているんです。

中川シ 深いんです。それはもう全部ありました。それに床の間に全部掛図をかけてね。

山崎 床の間。さきほど私、さよっと失礼して靴のまま上がったんですが、あそこに4、5本新聞紙に包んでホコリにまみれていましたが、あれですか。

中川シ さあ。私が見ればわかりますけど。すっかり譲っていったんですから。彼ら何も持たないで農場へ行ったんですからね。

山崎 その後引き受けられた方はもう駅通のほうは全然やらなかつたんですね。宿屋もやらなかつた。

中川シ はい、宿屋をちょっとやりました。

山崎 宿屋として。

中川政 冬はお客様はほとんどないですから、ストーブは部屋に焚いたことないですよ。

中川シ あの頃まだあまりストーブなかったからね。そりゃあ、後にはあったけど。

中川政 焚火時代だからね。

山崎 宿屋としてどのくらいやつたんでしょう。

川畠さんは昭和3年から。

中川シ 川畠さんはここに何年くらいいました。
田中 終戦と一緒に旅館の看板降ろしました。昭和20年ですね。昭和5年に、「川畠旅館」という看板をあげました。昭和3年に引き受けて。

山崎 あの、さきほどの話にシズさん。まとめますが、その寒いのにこの炉一つでお客様も家族の方も辛抱したわけですね。母屋の方には大きな炉はきっとありました?

中川シ ありました。

山崎 薪ですか。

中川シ はい。

山崎 炭はどうして使わなかったんですか。

中川シ 炭も使いました。コンロも全部その頃は炭でした。

山崎 その木炭はどこで?

中川シ こちらへんはずっと炭焼きさんがいたものですから買うには苦労しないんです。燃料は全然苦労なかったんです。

山崎 記憶の中に富山の薬屋でもなんでもいいんですが冬の雪の深い時に通るお客様というのではありません?

中川シ そういう時はあまりない。やはり官庁の方も暖かくなつてから…。

中川政 富山の薬屋というのは大体10月、11月の初めまでに来ていきましたから。だから、本当に寒くならないうちに来たから。

中川シ それでも木材が盛んでしたから、木材の親方達が泊まりました。留真の温泉にかけてね。

山崎 その頃温泉はもうあったんですか?

中川シ はい、ありました。ありましたけど、私が17、8歳になるまでは経営していませんでしたけれど、それから留真の家は浦幌から古い家を買って建ててくれたんです。

山崎 そうすると、この駅逓は今の浦幌から本別へ抜ける途中ということなんですね。しかし、本別へ抜けるというのでありましたら、池田経由があるんです。最もいい道で。北見まで行ける道がやがて鉄道までできるんですから。明治37、8年にはもう鉄道できているんですから。そうしますと、ここの駅逓の本当の仕事はどうも林業にある

中川シ ああ、そうです。この川が、田中さんも知っているけど流送人夫というのが10人も15人も20人も来ては泊まるんです。そして、上方から流木して、そこで止めて…。

中川政 それはもう遅い…。

中川シ 遅いけれども序々にそうなつていったんだから。

山崎 大正ですか、流送なんかやつたのは?

中川政 大正です。やっぱり木材すごく…。

山崎 浦幌川を使ったんですね?

中川シ 浦幌川も使いましたけれど、この留真川も。もっともっと細い川でした。

山崎 流送なんかきくんですか?

中川シ きます。ちゃんと水を止めて…。

山崎 あ、なるほど鉄砲水ね。

中川シ そして、この本流に出すんです。

山崎 さきほどの、乞食の話をもう少し聞かせて下さい。

中川シ それこそ真黒い顔をして真黒い手抜をかぶって。私はその時1人留守番をしていたんですそうしましたら、ちょっと戸を開けて、「泊めてくれ。」と言うんです。それを泊めては私は恐かないでしよう。それで騙して「ああ、泊めてあげたけれども今晚は役場の人や警察の人がお見えになるんで皆がお迎えに行っているんで、あんた、そういう時にここに泊ったら困るんじゃないの。お米あげるからどこかへ行って泊めてもらひなさい。」と言って、そのお米渡すのにブルブル恐かなくて震えました。アイヌとか土方の逃げたのとか土方の人なんかどれだけおにぎり作って背負わせて逃がしたかわかりません。

山崎 タコですか?

中川シ だって血だらけでしよう。耳がちぎれた裸足で、血だらけで叩かれ逃げて来る。

山崎 どこから逃げて来るんですか。

中川シ そちら工事をやっている所から。私はもう物言うことできないでしよう。でも、おにぎり持たせて逃がすのが一番後生だと思って。そして足だけ洗って押入れへ入れて。地下足袋ひとつはいてるんじゃないんですよ。そして「座つていなさい。今おにぎり作つてあげるから。」って一生懸命ごはん炊いて。握れないのを茶碗でこうやってして、そして風呂敷に包んで背負わして逃がしました。何十人と逃がしました。アイヌも随分助けてあげてあげたし…。

山崎 後生な事ですな。

中川シ アイヌの葬式も家でしてあげました。

中川政 それは家で働いていた者の葬式をして

やったんだ。

中川シ 使っていたといったって、あんなチャチャやハボなんかそんなに仕事しないでしょ。魚ばかりとて遊んでいるんですから。

山崎 チャチャやハボというのは何ですか？ 使用人ですか？

中川政 牧場の牧柵をまくのに3年かそこらここに、ついそこの堤防に小屋を建てておいたんです

山崎 造ってやって？

中川政 そして、そこで女供は魚採りをしたりしていたけれども。

山崎 チャチャ・ハボというのは2人とも男ですか？

中川政 ハボというのは女です。

中川シ チャチャはお爺さんです。

中川政 使用人です。使用人の葬式です。

山崎 そうですか。

中川政 アイヌも感心なものだ。あれしてやったのでも、それらの子供が今でも鮭持つて1年に一度…。

中川シ あれは偉いね。アイヌでも偉い。

中川政 シャモでうちの親父は人助けしているけど、あのアイヌは感心だ。

中川シ そして、うちのお婆ちゃんが亡くなつた時衣装を1しより背負つて、アイヌの着物着ないで、それ前にお婆ちゃんの着古しのをあげてあつたの、その人に。何を背負つて来たかと思うくらい背負つて来て、葬式のお通夜にちゃんとそれを着て出たんですよ。

山崎 その、あきさんの亡くなられた時にですか

中川シ はい、偉いですわ。

山崎 そうするとアイヌの話は出ましたが、和人で使っていたのはいませんでした。

中川シ はい、いました。石森与三松さんという人が。その前には宮本菊市という人が。

山崎 これの仕事は何でした。

中川政 牧夫です。駅通の使用人でお客を迎えたたり送つたり。まだいました。山根駒吉。岩崎齊次郎。

山崎 和人ですか。これ同じ時代にいたんですか入れかわりですか。

中川シ いかわり。

山崎 駅通時代の暮し向きはどうでした。

中川シ 家内の者はひどかったです。父親は一生

懸命道府、支庁へ歩いているでしょう。お母さんがここを引き受けて子どもを相手に。私なんか10才の時からお客様の賄をしたものです。

山崎 あのね、これはどこでもそうなんです。清水でも本別でも蓋派（けなしば）という所でも利別太でも必ず駅通取扱人はダンナがなっているんですが、これがもう河西支庁通いなんです。そこで接待したり、一杯飲んだり、随分暇と金をかけて家にいない。そしてあとに残つて妻が事実上の駅通取扱人なんです。そして、つつましい生活だったらしいですよ。

中川シ それはもう、おはづかしいぐらいです。

山崎 5日間芋粥で暮したという話も聞きました

中川シ そんなくらいではないです。

中川政 私のところの親父なら月に3日か4日しか家に帰えってこなかった。

山崎 お客様の事は、色々買って来て接待しても家内の者は粗末でした。本当に粗末でした。

中川 この北松さんの公職というのは、ここではっきりしているのは「官設中浦幌駅通取扱人」その他にどんなことやっていました。

中川政 村会議員の前に「総代」。それから「村会議員」浦幌消防団長。いや、消防団長ではないなあの時は。

山崎 警防団長ですか。

中川政 そう。「警防団長」いつも羽織、袴ですからね、「そういうのには相応しくないからダメだ」と言って大分遠慮したんだけど「どうしてもあなたじゃなきゃダメだから」と。

中川シ 木綿の袴に、木綿の紋付でどこまででも行つたんですから。

山崎 河西支庁に行った時はずっと馬ですか？

中川シ 歩きました。浦幌まで。汽車のあるところまで歩きました。馬に乗つても馬がかわいそうで叩かれもしないし、急がれないし、草喰べさせながら歩かすんです。かわいそうでね、馬が叩かれるのが…。

中川政 馬にはめつたに乗らない人だった。

中川シ 下駄はいて70何才まで歩きました。

中川政 それから「浦幌産業組合長」

山崎 今、残つていませんね。そういう写真に撮つておくような物は？産業組合長ですか。その頃は皆そういう苦労をしたので何も恥しいとかなんとかということじゃないと思うんです。本当に聞

くとひどいもんです。これは足寄だったかな、この中にも書いてあるんですが、とにかく食べる物では一番ひどいめにあったようですね。

中川シ とうきびのお弁当をもって行ったり、赤ちゃんおぶって学校へ行ったり。

山崎 とにかくこういう話を豊頃の二宮で聞いたんです。ワラジを作るのに茂岩から米俵を買って来た。そしてその米俵に白い米がまだ少しついていた。それでイナキビ飯に、子どもに少しでも食べさせようと思って、買って来た米俵にこびりついている米をきれいに払い落して、イナキビ飯の中に入れて子どもに出したんだそうです。そうしたら子どもが、いきなり飛上がって泣いて「母ちゃん、ご飯の中に白い虫が入っている。」と言ったそうです。そういう時代ですからね、背ながそういう時代ですから恥しいとか「そういうことじゃないんですね。

中川シ その頃うちの母親は米をあける時に米俵をすっかり払わないで困っている人のところに「俵が欲しいんだろう。よく払って使いなさいよ。」って米を全然払わないであげました。私それを覚えています。今、それを言われる人がいますよ。

「そういう恩を受けた」とか「帳面を買ってもらった」とか、「学校の鉛筆を買ってもらった」とか

山崎 学校の関係で何かしていましたか。

中川シ 学務委員もしました。この人（田中 利氏）のお父さんがするまでずっとやっていました

山崎 こういうね、33年の北海道河西支庁三浦東六という男が、中川郡利別尋常小学校の学務委員をやっていると。そして、どこどこに寄附をしたこういうのは皆持っていたはずなんです。

中川シ 寄附もしたわね。

山崎 このぐらいの方であれば当然やっているはずです。こういうのは筆書きですから、印刷ではないですから、本人が持っていないけりやどこにもないんです。

中川シ あったんだけど。皆なくしたね。書いた本もあったけど。

山崎 いつどこで先祖のことが活字になるかもわからないから貴重にしておかないと。

中川シ どこかに兄さん『中川北松』という本を持っている人があるんだよ。馬喰さんで。前に私汽車の中で「さあ、『中川北松』でも読もうか。」つて、なにも知らない人が2人相向いに乗って出し

た。その時、「中川北松、ご存事ですか」と聞きましたら、「知らいでどうする。中川北松知らん者は本当に脳なしだ」と。「そうですか」とね。私もどんなことになるか知らないけれども「私は、本當は中川北松の長女なんです」と言ったら、足のはだけていたのをいつのまにか正して「いや、お世話になりました」と。そういうことがちょいちょいありました。やはり嬉しかったです。

中川政 参考になれば寄附行為も私覚えておりますが…。今の美園の上浦幌小学校の敷地。それから美園神社の敷地。それから常盤（時和）小学校の敷地。

中川シ 敷地って、山をずっと…。炭焼きさんの子どもが学ぶために学校を一つ建てたんです。そして、先生をもらってきて、村へ寄附したんですこの神社（留真神社）も…。

中川政 この神社は牧場の中だったのかい。

田中 牧場の中にあって、そしてここを買収する時に神社敷地として残したんです。それで中川さんの寄附ということを古老から聞いているのですけれど、整理をしていなかったために、そのままになって書類は残ったものだから、現在国有地です。

中川シ その時植えた樹もあるんだけどね。

田中 古老から聞くことでは、中川北松さんが神社敷地は全部払い下げということになっていたんですけど、すぐそこで登記すればよかったんですが…。

中川政 神社敷地にそこだけ除外したから。

山崎 駅通の廃止になったいきさつは、こっちの方からやめたんですか。河西支庁の方で廃止ですか。

中川政 河西支庁の方で。

山崎 そうすると牧場・敷地・建造物の無償配布になったんですね。

中川政 はい、そうです。

中川シ もう開けたからいらなくなつた。

山崎 そうですか。その中だけポツカリ穴があいたんですね。神社のところだけ。

田中 8反いくらかね。

山崎 けつきょく、官に戻ったんですね。

(次号につづく)